

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2024年 08月 01日

学部・学科名 世界教養学部国際日本学科

担当教員氏名 宮本真有

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	銘傳大学日本語教育実習
3. 渡航先国名	台湾
4. 派遣期間	2024年 3月 3日 (月) ~ 2024年 3月 16日 (金) 14日間
5. 派遣先教育機関名	銘傳大学
6. 参加学生数	4名
7. 派遣目的	銘傳大学(台湾桃園)応用日本語学科学生を対象として、日本語授業の見学や教壇実習を行い、あわせて異文化体験や、銘傳大学の学生との交流の機会をもつこと。
8. 派遣内容	①事前指導：教壇実習で担当する予定の教授内容につき、授業計画立案、教案作成、授業運営について指導を受ける。 ②教壇実習：実習生は、銘傳大学応用日本語学科の初級と中級クラスにおいて、それぞれ1回ずつ教壇実習を行なう。実習に先立って銘傳大学教員による教案指導を受け、実習後に批評・助言を受ける。 ③異文化体験：銘傳大学の学生や教員、現地の高校生との交流を通して台湾の人と文化に触れる。 ④実習報告書を作成する。

<p>9. 成果</p>	<p>教壇実習に至るまでの過程で、担当する教科書や文型への理解の深め方、教案作成、学生たちとの関係づくり、現地校の背景情報収集など、日本語教育に携わる者として必要なスキルを身につけた。教壇実習では、その後の振り返りを通して自らの教師としての強みや弱みなどを把握し、今後の改善点を模索しながら、常に学び続ける姿勢を培った。また、現地での生活や相手校の学生との交流を通して、台湾の文化や歴史、日本との繋がりなどを学び、異文化理解も深めることができた。特に、ことばの面以上に相手と繋がりたい、分かり合いたいと言う心の面での変化がみられたのも、本実習の成果の一つだといえよう。</p>
<p>10. 備考</p>	<p>—</p>

以上

2週間の台湾実習を通じて

私は2週間の台湾実習を通じて、とてもたくさんのことを経験することができました。私は、この実習で初めて海外に行きました。海外は「治安が悪い」「食べ物が美味しくない」などといったようなマイナスなことをよく聞いていたため、最初はとても不安でした。しかし、実際に行ってみるとそのようなマイナスなことだけではなく、とても濃い2週間を過ごすことができました。

私はこの実習で2つのことを学びました。

1つ目は、50分の日本語の授業を行う難しさです。まず、事前指導の時から50分の教案を1から作成する大変さを身を持って実感しました。「どうすれば自分の言いたいことが学習者に伝わるだろう」「どうすれば学習者に楽しいと思ってもらえるような授業ができるだろう」などといったことを試行錯誤する中で、自分の中での新しい発見がいくつもありました。例えば、初級クラスは未習の文型が多く、使用できる文型が限られた中で50分の授業を行うことはとても難しいです。しかし、未習の文型ではなく、他の学習した文型で言い換えるとどうなるだろうといったようなことを考えることがたくさんありました。このようなことを繰り返し行うことで、いかに簡単な日本語で簡潔に伝えることができるかなど考える力が身につきました。また、現地に行ってから、教壇実習までの間の指導教員とのミーティングの中でも新たな発見がたくさんあり、リハーサルを行う中で実習生たちからもアドバイスをもらい、日々よりよい授業を追求することができました。そして、教壇実習本番では50分の授業を行い、達成感はもちろんのこと、実際に教壇に立ってみたことで得られた新たな学びなどがたくさんありました。それを2回目の教壇実習の際に活かして、2度の教壇実習を終えました。50分の授業の教案を作成するにかかった時間は、とても計り知れないものでした。現地に行く前の事前指導の時から、教壇実習当日直前まで教案を見ない日は一度もありませんでした。正直、教案作りはとても過酷でした。でも、教壇実習を終えた後の達成感を思うと「頑張ってたかった」と思うことがほとんどだと思います。教案作りをする中で、観光に行けなかったり体調を崩したりしますが、絶対に努力は報われます。とてもたくさんの学びを得た教壇実習でした。

2つ目は、現地の人との交流の楽しさです。私が台湾実習に行く前は、台湾人とのコミュニケーションが上手く取れるのかということをととても心配していました。私は、中国語はもちろん英語も苦手なので、現地の学生と絶対に仲良くなれないと思っていました。しかし、現地のボランティアの方たちや先生、学生はとても優しくて日本語が上手な人が多いです。みんな積極的に話しかけてくれたり、ご飯や遊びに誘ってくれたりします。そして、中には実習が終わった今でも連絡を取り合っている台湾の学生もいます。私が台湾に行ってみて感じたことは、台湾の学生は日本に興味のある人が多いということです。高校見学で高校生みんなに自己紹介や日本のことを紹介した時や、高校見学の時の交流の時に日本のことを話した時にも、学生たちは私たち日本人に興味津々でたくさん質問をしてくれました。コ

コミュニケーションを取る際には日本語なので、私も日本語で答えて分からない人がいれば日本語のできる学生が中国語で私が話したことをみんなに伝えていました。そのような間接的なコミュニケーションでも、全然コミュニケーションは取れるし、とても楽しくコミュニケーションができました。台湾のことを知れるきっかけにもなったし、台湾の学生とコミュニケーションを取れるいい機会にもなりました。

私はこの実習で、日本語を教えることの大変さと現地の人との交流の楽しさを学びました。どちらも、実際に台湾に実習に行ったからこそ学べたことだと思います。最初は不安の中で参加した実習で、途中で同じ部屋の実習生と何度も日本に帰りたいと話していた時もありました。しかし、最後には日本に帰国することに少し寂しさを感じました。これは、たくさん時間をかけて頑張って作成した教案を思い返したり、現地の人たちとの思い出を思い返したり2週間の台湾実習でたくさんの思い出があったからだと思います。私にとってこの台湾実習はとてもいい思い出になりました。いつか台湾で日本語を教える日が来るように、これからも頑張りたいです。

台湾実習で得た学び

私は、3月3日から3月16日の2週間、台湾の銘傳大学での教育実習に参加させていただきました。いくつかある教育実習先のなかから台湾を選んだ理由としては、ほかの実習先よりも異文化交流という点で充実していたことや、高校時代に一度台湾を訪れたことがあり、台湾の文化や食に魅力を感じていたことがあります。

2週間の実習を終えて、強く感じたことは、自分が生まれた場所とは違う場所で長い時間を過ごすことの楽しさ、毎日何かを知ることができる嬉しさでした。銘傳大学のボランティアのひとたちはすごくフレンドリーで、台湾に到着すると、迎えに来てくれた院生の方含め、温かく歓迎してくれました。歓迎会では、皆さんが知っている日本のことを話したり、逆に私たちが台湾のことについて聞いたりとても楽しかったのを覚えています。また私と共通の趣味を持っている人も多くとても親近感がわきました。そして、実習のうち多くの時間をボランティアの人たちと一緒に過ごしました。いろいろな場所に連れて行ってもらったり、美味しい食べ物を教えてもらったり、言葉を教えてもらったりしました。その中で私は「いろんなことに挑戦してみれば、自分の世界が広がる」ということを学びました。具体的には、日本では見ない味付けの食べ物や、中国語で話してみることに挑戦しました。台湾では、主に中国語が使われているので、何かを伝えたいときには中国語で伝える必要があります。基本的にはボランティアの人たちが一緒にいてくれますが、実習生だけで過ごす時間もありました。その時には、何とか教えてもらった単語で伝えてみようかと挑戦してみました。もちろん、そう簡単にはいかないので、何度も失敗しました。しかし、相手の表情でなんとなく「理解してもらえたんだ」と感じることもありました。そうしたときは、とても嬉しかったです。食べ物に関しては、味の想像が食べ物も食べてみたらすごくおいしかった、という経験を何度もしました。これらの経験は、食べ物や言語だけに限らず、今後もし私の目の前に未知の何かを表れた時、きっと役に立つのだろうと感じました。大げさかもしれませんが、それくらい貴重な経験をしたと思います。

実習のスケジュールの中には、高校見学というものもあり、私たちは3つの高校を見学しました。そこでは学校や先生によってさまざまな授業があったのですが、どれも参考になる授業ばかりでした。また、高校見学では、自己紹介や日本のことを話すプレゼンテーションを行いました。内容もちろんですが、日本語学習者にとって理解のしやすい話し方や言葉選びをするという経験は、とても大事だったと思います。また聞こえやすい話し方や興味を持ってもらえるトピックなど、様々なことを学ぶ良い機会でもありました。自分の好きなものに興味を持ってもらえたのは、純粋に嬉しかったです。

教案作成や教壇実習に関しては、想像よりも難しく、しかし楽しいものだったと言えます。まず、当初作っていた教案では、想像力や配慮に大きく欠けていたと思います。教案を作る上では、学習者の既習項目について配慮することや、「この漢字は難しいかな」「イラストがあったほうが分かりやすい」などという、想像力が必要だったのですが、私にはそれが足り

ていませんでした。しかし、現地で先生のご指導を受け、実際に教壇実習を行うことでそれらの大切さについて身をもって知ることができました。何より、授業を行うことは、難しいことだけど学習者とともに学ぶということは非常に楽しいことである、ということを感じました。しかし、指示を明確に行うことや、中級クラスでの実習で行ったペアワークの難しさなど、実際に授業を行うことでしか学べないものもたくさん経験しました。2回目の授業では、1回目の授業より大きく進歩したと思いますが、それでもまだよりよくできるとも感じました。他の3人の行った授業を見学することも、大きな学びになりました。授業の運び方やスライドの作り方など、自分では思いつかなかったアイデアにあふれていて、見てるのがとても楽しかったです。もちろん、指導を行う先生が違ったというのも理由にあるかもしれませんが、みんな個性のある授業を行っていて本当にすごかったです。

これまでに書いたように、私の2週間の台湾実習は充実していて非常に濃いものでした。楽しい思い出はもちろんたくさんありますし、初めて学習者の前で授業を行う難しさ、楽しさを知ることができました。自分の好きなことや物を活かして、人と関わることの嬉しさを感じられたこともいい経験でした。加えて、台湾のボランティアのひとたちや先生方の温かさや優しさを常に感じられた、とても幸せな2週間でもありました。台湾を立つ日、寂しいと思うくらいには、台湾のことが好きになりました。また、名古屋に帰ってきてから中国語を勉強したり、今も台湾の学生さんとは連絡をとったりしています。2週間だけで終わるのではなく、私のこれからも良い影響のある時間を過ごせたと感じています。

最後にはなりますが、今回の実習は銘傳大学の皆様や高校の関係者様、事前指導から実習中、帰国の最後までご指導いただいた宮本先生、一緒に実習に参加した他の3人がいなければ成り立ちませんでした。今回の実習に関わっていただいた方々への感謝を忘れず、今後の大学生活に励みたいと思います。

台湾実習を通じて得たこと

今年の春休みは楽しくて、忙しい春休みでした。就活解禁と同時に2週間台湾実習に行きました。就活の事が頭をよぎりながらも、この2週間で多くの経験を積む事ができました。

事前研修では、教案作りについて一から学びました。この教案で授業ができるのか不安がありながらも初めて教案を作り終わった後には少し達成感がありました。もちろん、初めて作った教案は全然ダメで修正が沢山ありました。皆で何度も修正を繰り返し、指導教員にこれで良いよと言われた時は安心と同時に、この内容を本当に教えることができるのか、50分の授業を成功させることができるのか不安でした。

台湾に着いてからは、授業見学や高校見学、現地の学生との交流など毎日予定がありました。現地の学生はとてもフレンドリーで積極的に私達に声を掛けてくれました。私は、台湾の学生や教授と接する中で、台湾人は温かい人がとても多いなと思いました。また、台湾の学生と教授はとても距離が近く、とても仲が良い事に驚きました。距離が近いながらも、互いにリスペクトをしている所がとても良いなと思いました。同じアジア圏でありながらも、こんな違いがある事に驚きました。

教壇実習は初めてと言うこともあり、とても緊張しました。学生の反応はどうか、自分で教室を回していけるのかとても不安でした。いざ、教壇に立って授業をしてみると教室運営の難しさを痛感しました。自分が伝えたい情報と、学生が解釈した情報が食い違っていたり、思っていた反応と違い焦ることもありました。特に、ペアワークでは発表させたくても発表を聞く側が聞いていなかったり、間違いをスルーしてしまったりなど多くの反省点が残りました。今まで、教師はただ教えるだけが仕事だと思っていましたが、色々な所に注意を払いながら授業をしているのだなと感じると共に授業をする大変さを学びました。2回目の教壇実習の時には、生徒の反応があまり良くなく、50分の授業を作ることができるのか不安でした。中でも、レポート練習の時に声が小さいときにどうしたら大きな声でレポートしてくれるのか、また、学生に注目してもらえるアプローチの仕方はないのか、本当にこの授業の仕方で良いのかと自信を無くす瞬間もありました。しかし、自分が暗い雰囲気で行えば、学生のやる気を落としてしまうと思ったので、自分だけでも明るくしようと思い常に元気に授業することを意識しました。そうすることで、学生が協力的に授業に参加してくれたり、徐々に教室をコントロールできるようになりました。授業が終わった時には、学生に「良かったよ！」「楽しかった！」と声をかけてもらいとても嬉しかったことを覚えています。また、2回の教壇実習が終わった時には大きな達成感を得ることができました。

大変なこともありましたが、休日にはボランティアの学生と九份に行きました。一緒に時間を過ごす中で、色々な共通点で話が盛り上がり仲を深めることができました。台湾の学生は本当に親切で何度も声を掛けてくれたり、何が食べたい？どこに行きたい？と私た

ちが行きたい所に連れて行ってくれました。実習のことで頭がいっぱいでしたが、その日だけは観光をし、リフレッシュすることができました。また、一緒に遊びに行ったことで、台湾人の温かさに触れることができました。

今回の台湾実習で自分の将来を見つめ直すことができましたし、日本語教師という職業に魅力を感じました。大学を卒業してどんな業界に行くかはまだ分かりませんが、今回の経験を糧に頑張っていきたいです。

私の台湾実習

3月3日から3月16日までの2週間、私は台湾の銘傳大学で日本語教育実習に参加しました。短い間でしたが、私にとって非常に有意義な時間でした。台湾での異文化交流や教壇実習を通して多くの学びや経験を得て、自分自身は大きく成長したと感じました。

私は将来日本語教師になりたいと思っています。これは中学校の時から夢です。私は日本語教師として日本国内だけでなく、海外でも働きたいという想いがあります。そのため、今まで大学の日本語教育プログラムの授業で学んだ知識を今回の実習先、台湾で活かし、また台湾における日本語教育を学び、幅広い視野を持ちたいということが今回の教育実習の目的でした。今まで蓄えた知識を生かし、教案作成に向けて取り組みました。初めての教案作成で、わからないところがたくさんあり、何回も修正し非常に苦労しました。しかし、先生方の指導のおかげで無事に完成しました。また、現地の指導先生との交流を通して、台湾の日本語教育を知り、日本と異なるところを学び、日本語教師になるために必要な知識や経験を得ることができました。例えば、台湾では日本語の授業で直接法よりも間接法を使用することが多いです。日本の英語の授業と似たような感じです。なぜなら、台湾の学生は聞くよりも目で見て勉強するほうが定着しやすい傾向にあります。したがって、口頭だけで説明するのではなく、パワーポイントやホワイトボードに書くなりして、視覚情報を与えることが必要です。このように、学生の状況から判断し、学生に適する授業方法を選択することが大事だと考えました。

また、今回は学生ではなく教師の立場で実習をすることは、私にとってとても考え深かったです。まず、教案作成は本当に大変で、この実習に参加しなければ、普段受けている授業での教師側の大変さを知ることができなかつたと思います。そして、授業というのは教師だけが頑張るのではなく、積極的に授業に参加してくれる学生が必要です。今回の実習を通して、学生のリアクションがとても重要だと感じました。学生が積極的に授業に取り組んでくれば、教師側もリラックスした雰囲気でも授業をすることができると感じました。しかし、積極的に発話してもらうには、教師として楽しい授業を作る必要があります。楽しい授業とは何なのかを考えました。まず、学生の立場に立って、考えることが必要不可欠だと思いました。学生が興味のある話、学生がなじみのある話でアクティビティやペアワークを作ることが必要です。また、練習させる例文をより実用的に、リアリティがある内容にして、実際の日常生活で使えそうなものを教えることが重要です。そして常に、学生の視点から「どうしてそうなるの」と自分に問いかけ、答えられる準備をする必要があると感じました。

それから、この 2 週間高校や大学の見学を通して、現地の先生方から様々なことを学びました。教師の声の大きさ・言葉遣いや教室内での動きが、教室の雰囲気につながると感じました。教師が大きい声で授業をすれば学生の方もきっと大きい声を出しやすくなります。学生のレベルに合ったティーチャートークで説明することが大切だと思いました。そして、先生の動きが教室にいい意味での緊張感を生むことに繋がると考えました。また、机間巡回時の確認する様子や注目してほしいときの声掛けを学びました。

このように、今回の教育実習を通して、大変さ以上に楽しさや嬉しさなどのやりがいを感じました。それは、自分が頑張ったからではなく、積極的に授業に参加してくれる学生がいて、指導してくださる先生方の支えがあったからです。もちろん準備するのは非常に大変で、教案を何回も何回も修正することにも苦労しましたが、よい結果に結びつけたことは本当によかったと感じました。これから私は日本語教師という職業に向けて精一杯頑張りたいと思います。

最後に、この 2 週間台湾での思い出について書きたいと思います。私は今回台湾に来るのが初めてです。渡航する前から緊張や不安がありました。しかし、初日から強く感じたのは、台湾の方々がとても親切であることです。現地の先生や学生は私たちが安全で楽しく過ごせるように常に気にかけてくださいました。生活面では、台湾は思ったよりも気温が低かったです。私は厚手アウターを持っていなかったのが、本当に寒かったです。しかし、宮本先生と徐先生はいつも私のことを心配して、寒い日に自分の服とマフラーを貸してくださいました。先生たちのおかげでこの 2 週間毎日暖かく過ごせることができました。本当に心から感謝しています。また、ボランティアの学生たちのおかげで、毎日充実して、楽しい 2 週間を過ごすことができました。初日からみんながとても明るく、笑顔で話しかけてくれました。初日の夜ご飯は私が大好きな火鍋で、みんなと話しながらご飯を食べていたのであつという間でした。とても楽しかったです。そして桃園夜市などを案内してくれて、おいしい食べ物をたくさん教えてくれました。大鶏排と地瓜球それから豆花は本当においしかったです。日本に帰ってきた今でも思い出すと食べたいです。それから私たちのために観光案内の準備をしてくれましたが、教案修正の関係で一日しか行けなかったのが本当に申し訳なかったです。しかし、日曜日は念願の九份に連れて行ってくださいました。そこで有名な芋圓を食べたり、お土産さんで買い物したりしてしまいました。夜ご飯は西門というところに排骨飯を食べに行き、みんなと写真を撮ったので、いい思い出でいっぱいになりました。さらに台湾では、先生たちや学生だけではなく、現地の方々も本当に優しくかったです。特にご飯屋さんの方がいつも、これは「一番おすすめだよ・これは辛いよ」と親切で丁寧にメ

ニューを紹介してくれました。本当に台湾は温かくて生活しやすいだと感じました。

今回の台湾教育実習はあっという間でしたが、本当に毎日充実して、楽しかったです。現地の先生たちや学生のおかげで、リラックスして実習に取り組むことができました。ここには書ききれないほどとても感謝しています。また、必ず台湾にもう一度行って、みんなに会いたいと心から思っています。

この実習では、多くの学びを得て、それから今までになかった体験をしてきました。この2週間で学んだものを忘れずに、これからの生活に活かしていきたいと思います。